



JR沼津駅前に建立された江原素六銅像



県立沼津西高書道部による「克己制欲」



米山書『幕末西洋文化と沼津兵学校』



## 克己制欲

2022年5月15日、生誕180年、没後100年を記念してJR沼津駅北口に江原素六の像が建立された。銅像は、長泉町の彫刻家堤直美氏が制作、台座の題字は静岡県森町出身の書道家杭迫柏樹氏(京都伏見RC)によるものである。

江原は徳川家の静岡移封後沼津に移住し、旧幕臣の士族授産事業として制靴業、牧畜業、植林業、茶の輸出会社(積信社)などを設立した。素六が事業をはじめてから沼津でもお茶の栽培が盛んになり、グラント将軍が来日した折には視察にきている。また、静岡県会議員、衆議院議員、貴族院勅撰議員など政治家としても活躍した。

江原が力をいれた活動の一つに教育がある。旧幕臣の子女の教育のための沼津兵学校、沼津中学校、駿東高等女学校(現:静岡県立沼津西高等学校)などを設立した。東京には麻布学園も創設している。

米山梅吉は沼津中学校に通っていたが、この時の校長が江原であった。「斯くて沼津は學問の地として再興するやうになり、之が經營に與かり當初の校長となつたのは江原であつて、校舎も當時としては驚くべき宏壯なる様式の建築をなし、新たに沼津に一美觀を添へたのであつた。沼津中學は其特色として大いに英語を盛んにせんとし、當時驚くべき高給を以て外國教師をさへ招聘した」(米山梅吉著『幕末西洋文化と沼津兵學校』より)和・漢・洋・数学など学ぶ科目は多岐にわたり「瀬渦たる活氣校の内外に満ちてゐた」(同上)。

「我々人間は物質上の富を以て、決して安心立命は得られるものでない」(江原素六著『急がば廻れ』より)と言っていた江原の座右の銘「克己制欲」は、多方面への事業に関わり活躍していたものの、質素な生活をしていた江原の生き方そのものであった。そんな江原の姿は、梅吉少年の心に大きく響いたことであろう。